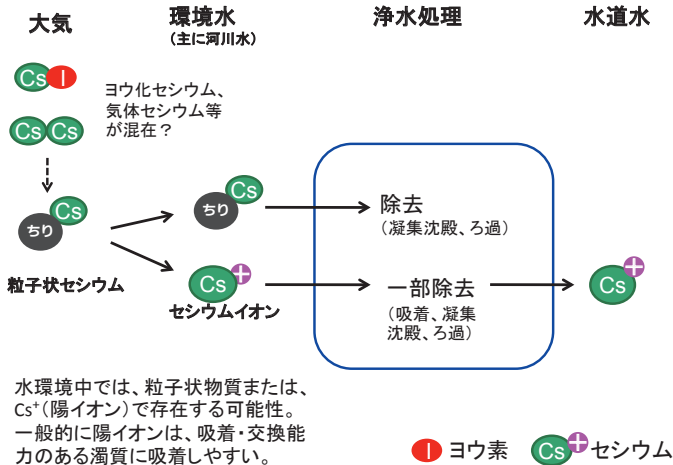


### 放射性セシウムの挙動概念図



第12回厚生科学審議会生活環境水道部会 平成24年3月

福島第一原発事故によって放出された放射性セシウムは、セシウム 134 (Cs-134) 及びセシウム 137 (Cs-137) がほぼ 1 対 1 の割合で存在し、環境中でも同様の比率で検出されています。放射性セシウムは、福島第一原子力発電所から放出された後は、粒子、又は気体で存在しましたが、地面表層に降下したものが土壌、及び粒子などに吸着した状態で存在するとともに、水面に降下したものが環境水中で粒子、又はセシウムイオン（陽イオン）として存在していると考えられます。放射性セシウムは水中で粒子に吸着した状態で土壌など濁質と同様の挙動をとりやすく、濁質の除去により高い除去率が期待できます。

本資料への収録日：2013年3月31日

関連 Q&A

- ・3章 QA12 雨水や日常食のストロンチウム 90 やセシウム 137 はどのようにすれば測れるのですか
- ・3章 QA16 食品、上水中の放射性物質はなぜセシウム 134、セシウム 137 やヨウ素 131 の濃度しか発表されないのですか
- ・3章 QA24 雨の日は空間線量率が高いのですが、今でも放射性物質が降ってきているのでしょうか